国体を待つ……わが市……わが町……わが村……の自慢

熊本市

自慢の陸上競技場や体育館

秋季国体の十一種目を担当する熊本市は会場も全市にわたり、主会場十八、練習会場を含めて六十八の施設を擁しています。準備も全く成り、開催を待つだけです。

では自慢の施設を紹介しましょう。

▽**陸上競技場**（開・閉会式場、陸上競技）市の東部、水前寺公園に隣接した台地にあり、野球場、競輪場とともにスポーツセンターを形成しています。去る昭和二十六年東口杯開催期に竣工したもので、場内一万二千坪を擁し、国体開閉会式場にあてるためグランド、スタンドの拡張出入口改装等に二千五百万円を投じ面目を一新した。収容人員もメインスタンド三千六百人、芝生スタンド一万八千人に及んでいます。

▽**体育館**（雨天の開閉会式場、体操競技）ダイヤモンドトラス工法によるカマボコ型で、総工費一億二千二百万円、総面積二千二百坪、東京都立体育館につぎ全国第二位の規模を有している。

公式戦や国際試合などの際はテニス一面、バスケットボール二面、バレーボール三面、バドミントン十二面、ピンポン三十面をとることができる。

このほか体操、剣道、柔道、レスリング、相撲などのスポーツのほか、文化の殿堂としても大いに活用されている。また館内の照明は総数五百四十個（八万燭光）、スピーカーは低音用六十個、高音用九個を備えている。

▽**新屋敷テニスコート**（テニス競技）国体用コートとして市有地に経費二百四十万円を投じ建設したもので、面積五百五十坪、四面建設に際しては全国初の試みとして、ガラ敷の層を厚くして三米間隔にビニール管を配し、排水を良くするとともに乾燥時に適度の湿気を与える設備を施してある。

▽このほか西日本一を誇る北岡弓道場、城内バレーコート等十八会場ともに完備し、愛市憲章のもと、花一ぱい、親切運動を展開して、開催を待ちわびている。

（熊本市企画広報課）

八代市

花で埋める八代会場

国体選手を暖かく迎えるための花いっぱい運動が実を結び、テランセラー、サルビヤなどの花が、八代城跡公園を中心に、きれいな色どりを見せています。祝「カンゲイ」の花文字も、美しくでき上りました。三百カ所に作られる、移動花だん用の木箱には、サルビヤが植込まれふちは、テランセラーで囲み、いつでも持ち出せることになりました。

市菊栄会でも、商店街と協力して、七百本の鉢菊が育てられ、店先に飾られるよう準備されました。婦人会、学校、工場などで作られた花だんにも、色とりどりの花が咲きみだれています。

その外、八代宮の石垣のツル草も刈り取られ、濠端の柳も剪定されました。四カ所の競技会々場周辺の掃除も、婦人会町内会の手で行なわれています。

二十三日からの国体には、街中を花で埋め、親切運動とともに、国体選手を慰さめることができれば幸いです。

（八代市企画広報室）

水俣市

菊花で飾る水俣会場

国体を花で飾ろう……との相言葉で、県下全域に花いっぱい運動が展開されて来たが、特に水俣市では学校や婦人会などが熱心にこの運動を進めてきた。

なかでも、水俣菊花同好会（会長朝隈貞光氏）では市教育委員会とタイアップして、菊の花で水俣会場を飾ろうと、昨年十二月から育苗に着手し、この春約千本の苗を会場その他に分配するとともに約千鉢の菊を育てている。この鉢植えの菊は大会当日水俣駅前や各会場に展示して、選手役員を慰めようというもの。

また、これに協賛した水俣市商工会議所でも、会議所会員の手で約九百鉢が育てられ、店頭や街頭を飾っている。

こうした準備のかげには、その材料となる腐葉土を採取して提供した市内各小中学校生徒の協力も大きな力となった。

（水俣市教育委員会）

山鹿市

全市民の胸に歓迎の小うちわを

郷土カラーを折りこんで、小型の来民うちわ（横五センチ縦七センチ、左頁の写真）に国体マークと歓迎山鹿市を二色ずりにしたスマートなものを二万本作成。町を行く市民みんなの胸に飾って歓迎のまごころを表わそうというもの。

前夜祭に灯ろう千人おどり

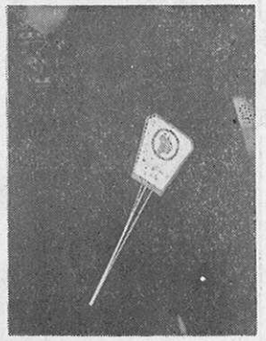
遠来の国体選手を歓迎のため、伝統をほこる山鹿の名物灯ろうおどりは中秋の宵やみに異例の饗宴をくりひろげて、選手役員宿舎を中心に、その旅情を慰めます。

菊花壇で全市をかざる

温泉広場に設けられる菊花壇は例年観光客の好評を得ていますが、本年は特に各商店街にもそれぞれの創意工夫をこらして菊花を飾るため準備万端完了しました。菊かおるいで湯の街として、遠来の方々に思い出を残していただくことになりました。

各県担当の接待係を任命

全国都道府県に各一名宛の担当員を定め、選手団につきっきりで、万般のお世話を申し上げ、連絡からメッセンジャーの役目までお引受しようというもの。このほど四十七名の接待に関する特別講習も実施して、親身になつてのお世話をしようと待機することになつた。



＜胸に歓迎の小うちわを＞

菊池市

米と温泉とマスゲームと…

花房台地から見下した菊池の景観は、山紫に水清く、まことに絶景です。中でも自慢のものを列挙して見ます。

(1) 米のうまいこと。すし米で有名な菊池米の産地で、この味はきっと選手諸君に自慢のできることです。

(2) 無色透明なアルカリ性温泉が豊富に湧き出ており、旅情を慰めつかれを直す各旅館の内湯の施設は、きっと選手によろこんでもらえると思います。

(3) 由来菊池の女性は純情です、婦人会高校生、中学生延二千名をこえるマスゲームは、歓迎の意を盛り上らせる為に練習を重ねています。

（菊池市実行委員会）

宇土市

全市民が「重量挙げ」を理解

宇土市はウエイトリフテイング（重量挙）が行なわれますが、市民で実際にこの競技を見たことのある人は殆んどいない状況でしたので、県内選手のご協力をえて、会合という会合には残らず出向いて実演解説をやり、今では全市民がこの競技をよく理解し、全国の選手と競技について話し合つても恥しいということがない迄に競技知識が豊富になりました。

選手の歓迎には商工会が中心に、婦人会はマスゲームの間をぬつてやさしい接待を、特に夏休み返上で猛練習を続けた、宇土小学校鼓笛隊の名演奏は歓迎に一段と花をそえることでしよう。

又宇土市青年団では早くも大会当日の会場清掃を申し出ており、消防団も警備は引き受けたと全く歓迎準備完了といつたところです。

また、今年四月から各家庭に種を配布し育てて戴いたダリヤや葉げいとうは、国体事務局の準備した花壇の花々と共に重量挙選手に美しい花びらをお見せしようと、歩道筋でじよろの水をうけているさまは特に印象的です。

（宇土市実行委員会）

本渡市

旗リレーには婦人会も

(1) 競技場の設備は甲子園球場にはおよびませんが、広さと環境の良さに於ては優るとも劣りません。

(2) 誰も口では云うが手をつけない各川の一斉清掃を、去年と今年と二回もやつて市民から喜ばれている婦人会。花いつぱい運動にも自費を投じ、競技場にも記念樹を植え、会場の手入れ清掃、除草も子供会、青年団、婦人会がよく協力しています。

(3) 本渡町婦人会では、各部を割振り、選手の出迎え、見送りを自主的に担当大会当日は選手役員の接待は一手で引受けています。

(4) 旗リレーにも宮地岳婦人会の幹部で一隊を編成して走ります。

(5) 浄南子供会は大会三日間あと掃除を申し出ています。

(6) 甚六クラブ員は選手の手荷物の運搬を引受けています。

（本渡市実行委員会）

一の宮町

女中さんも伝説の勉強

一の宮町は神話と伝説の町です。全国卓球の選手にぜひ〝わが町の歴史〟を聞いてもらおうと、阿蘇神社宮司にお願いし、旅館の女中さんをはじめ、関係者を一同に集めて、その古事来歴を聞く講習会を開いたのもわが町の自慢の一つ。

又遠来の選手一同を遠く玉名市や熊本市まで迎えにゆく係は、役場税務課の担当となつていますが、係ではバスのガイド嬢よろしく、はやくから車内での阿蘇観光の紹介の練習に大童。

テープコーダを使用しながらの猛練習は「阿蘇の御神火」や「阿蘇の恋唄」などの民謡入り。これで旅情をなぐさめようという寸法。これはもつぱら庁内でも